

原 著

看護学生が看護学会参加前後で抱く 「看護研究」に対するイメージの変化 —自由記載による質問紙調査に基づくカテゴリー分析—

中央看護専門学校、教務部；看護教員

木戸 寛子

目的：看護学生のうちから、看護師が研究に取り組む意義と研究の必要性を認識していくことが、専門職業人となってからの研究的態度に繋がると考えられる。今回、看護学生が抱く看護研究のイメージが看護学会参加を通してどのように変化するのかを明らかにする。

方法：当校2年次の学生59名を対象に、看護学会参加前後で変化する「看護研究」のイメージに関する質問紙調査を行った。分析は、記述内容の内容分析によりカテゴリー化を行った。

結果：看護学会参加前の「看護研究」に対するイメージは、【難しそう】が最も多く、次いで、【看護を深く追求するもの】、【よりよい看護をするための研究】が多かった。学会参加後の「看護研究」のイメージは、【よりよい看護の実践のため】が最も多く、次いで【看護の知識・技術の向上のため】、【研究結果を看護に活かす】が多かった。

結論：1. 「看護研究の基礎」の授業開始時は、看護研究に対する困難さ、学生自身が看護研究に取り組むイメージを持たず、【よくわからない】という漠然としたイメージを抱いていた。また、看護を追求しよりよい看護実践へつなげるものであるということや、研究過程を看護過程と結び付けたイメージを持っていた。
2. 「看護研究の基礎」の授業開始時は看護研究に対する困難感へのイメージが多かったが、学会見学後はよりよい看護の実践のために行うもののイメージが多くなり、さらに興味関心に関するイメージを新たに抱いていた。
3. 学会参加を通し看護研究を【よりよい看護の実践のため】と捉え、研究成果を発表する学会を【知識・情報の共有】するための【意見交換の場】と捉えていた。さらに、【看護の知識・技術の向上のため】に必要であり、【研究結果を看護に活かす】と看護研究を公表することの意義を見出していた。

キーワード：看護学生、看護研究に対するイメージ、看護学会参加、自由記載質問紙調査

結 言

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うできるように援助を行うことを目的としている。(1)その目標達成のために、科学的に裏付けされた看護実践により、健康な生活の実現に向け手助けを行うことが看護専門職の役割である。科学的に看護を実践するためには、疑問・課題を研究によって解決していかなければならない。看護学生のうちから、看護師が研究に取り組む意義を理解し、研究の必要性を認識していくことが、専門職業人となってからの研究的態度に繋がると考えられる。

当校では、「看護研究の意義及びプロセスを学び、研究的態度を養う。」ことを目的とし、専門分野Ⅰに「看護研究の基礎」を科目として位置付けている。学習内容として、看護研究とは何か、研究過程、文献活用の意義と方法の他、ケース・スタディ論文の作成を通して研究過程と看護研究の方法を学ぶ。さらに、看護職の研究への取り組みを知り、研究への意識や研究的態度を高めることを目標に、日本看護学会への参加をしている。

先行研究で中谷は、「看護研究の方法」の授業における学生の学習成果として【新たな知見の獲得と深化】、【研究過程における疑問の解決】、【研究過程における新たな疑問の発見と研究の進展と継続】、【看護実践における研究成果の価値と活用の重要性】、【看護に関する自分自身の疑問、知りたいという研究動機・目的の明確化の重要性】の5要素を挙げている。(2)その他の先行研究の中で、臨地実習での体験をもとに学生が抱くイメージに関する研究報告はあるが、看護研究のイメージに関するものは見当たらない。

そこで、看護の初学者である看護学生が抱く「看護研究」のイメージが看護学会への参加を通してどのように変化するのかを調査したので、その結果を報告する。

対 象 と 方 法

1. 対象
当校2年次の学生59名を対象とした。

2. データ収集日

学会参加前として1回目の調査を2013年9月10日、学会参加後として2回目の調査を2013年9月27日に、実施した。

3. 方法

質的記述的研究とし、無記名自記式質問紙法による留め置き調査とした。

「看護研究の基礎」の授業の開講日に『看護研究』という言葉からイメージするものは何かを自由記載で回答を求めた。授業開講日の授業では、看護における研究の意義、研究倫理に関する授業を行い、2回目の授業は、3年生のケース・スタディ発表会の聴講を行った。その後、看護学会に参加し、看護者の研究への取り組みの実際を見学した。学会参加1週間後に看護学会参加後の『看護研究』のイメージを自由記載で回答を求め、2回の質問紙調査の記述内容に関して内容分析を行った。自由記載の内容が文章で表現されている場合は、意味の異なる最少単位の分節で区切りコードを作成した。その後、類似するコードでカテゴリーを構成したが、カテゴリーの構成ができないコードを除外とした。カテゴリーとコードの内容が損ねていないか、看護教員経験10年以上の看護教員をアドバイザーとし、内容分析の確認をお願いした。

4. 「看護研究の基礎」の授業の概要

1) カリキュラムにおける位置付け

「看護研究の基礎」は専門分野Ⅰに位置付けられている。看護概論、基礎看護技術、看護過程、基礎看護実習は終了しており、専門分野Ⅰの中でも最後に学ぶ学習である。2年次後期に開講し、30時間1単位である。

2) 「看護研究の基礎」の授業概要(表1)

20時間分の講義として、看護実践における研究の意義、研究倫理、研究過程、文献検索の意義と方法を学んだ後、基礎実習での看護実践を踏まえケース・スタディ論文の作成方法を学ぶ。また、10時間分の演習として、3年生のケース・スタディ発表会の聴講と、日本看護学会への参加を行っている。

5. 倫理的配慮

研究目的と主旨、研究方法を対象者に口頭で説明し、質問紙にもこれらの説明を明記した。研究への参加・中断は自由であり、それによって不利益が生じることがないこと、質問紙の回収をもって同意を得たと判断すること、また、質問紙は無記名で、調査内容は研究者のみが取り扱い本研究以外で使用しないこと、対象者のプライバシーは一切公表されないこと、データの保管・管理を厳重に行い研究終了後に研究者が責任を持ち粉碎処理することも説明し、データの保障と協力を得た。また、結果の公表についても許可を得た。筆者が所属する施設の看護研究倫理審査委員会で審査を受け、許可を得てから実行した。

結 果

1. 学会参加前の授業開始時(表2)

59枚の質問紙を配布し、回収数54部、回収率は91.5%であった。回収した54枚の回答を分析対象と

し、115のコードが作成され、その内6コードを分析除外とし、109コードを分析した。その結果、16カテゴリーが形成された。形成したコードの多い順に【難しそう】、【看護を深く追求するもの】、【よりよい看護をするための研究】、【時間がかかるもの】、【大変そう】【看護の質の向上のために行うもの】、【よくわからない】、【時代の積み重ね】、【論文を書く】、【エビデンスに基づき研究をするもの】、【発表すること】、【知識が必要】、【面倒そう】、【幅が広い】、【偉い人が取り組むもの】、【研究プロセス」となった。

2. 学会参加後(表3)

57枚の質問紙を配布し、回収数52部、回収率は91.2%であった。回収した52枚の回答を分析対象とし、95のコードが作成され、その内6コードを分析除外とし、89コードを分析した。その結果、16カテゴリーが形成された。形成したコードの多い順に【よりよい看護の実践のため】、【看護の知識・技術の向上のため】、【研究結果を看護に活かす】、【患者への援助を研究する】、【研究結果を発表・公表するもの】、【看護上の疑問を解決するもの】、【難しそう】、【研究のテーマ・取り組み】、【大変そう】、【知識・情報の共有】、【看護の質の向上のために行うもの】、【看護研究への興味】、【すごい】、【答えがないもの】、【意見交換の場】、【看護の根拠の明確化」となった。

考 察

「看護研究の基礎」の授業開始時の看護研究に対するイメージでは、【難しそう】が最も多かった。また、【大変そう】、【面倒そう】、【知識が必要】といった看護研究に対する困難さを抱いていた。さらに、【偉い人が取り組むもの】のように、学生自身が看護研究に取り組むイメージを持たず、【よくわからない】という漠然としたイメージを抱いていた。しかし、その反面では【看護を深く追求するもの】、【よりよい看護をするための研究】、【看護の質の向上のために行うもの】、【エビデンスに基づき研究をする】という、看護を追求しよりよい看護実践へ繋げるものであるというイメージを抱いていた。また、【時代の積み重ね】のように、社会や医療が時代とともに発展していく中で看護も変化していること、【論文を書く】、【発表すること】といった、研究過程に関するイメージを抱き、【研究プロセス】を看護過程と結び付けている学生もいた。講義と看護学会参加前のこの時期の学生は、1年次から基礎看護学で看護技術の原理原則を学習し、それを踏まえ基礎看護実習で患者への日常生活援助を体験している。臨地実習を通し患者への最善・最良の看護を実践するには根拠を持った実践が必要であることを結び付けた結果ではないかと考えられる。

看護学会参加後の看護研究に対するイメージでは、【患者への援助を研究する】、【看護上の疑問を解決するもの】から患者に実践した看護を題材に研究し、現場の疑問を解決するものが看護研究であるという授業開始前にはなかったイメージを抱いていた。西條は、「つまり、研究とは、看護をめぐる現象を構造化し、実践の役に立つ知見にしておく1つのツール、手段です。」と述べている。(3)患者によりよい看護を実践す

るためには、看護師の知識・技術の向上と合わせて看護の質を高める必要性を感じたものと考えられる。また、臨床での看護現象や患者への看護の実践を題材にしている研究成果を目的に、看護研究を【よりよい看護の実践のため】、【看護の質の向上のために行うもの】と、科学的に裏付けられた看護実践を行うための手段のひとつであると捉えたものと考えられる。さらに【研究結果を看護に活かす】からも、看護研究をして終るのではなく今後の看護に活かしていくものであるとイメージしていた。看護学会で研究成果を発表する姿や質疑応答などの活発な意見交換をなされる場面を見学したことから、看護学会は【研究結果を発表・公表するもの】であり、参加することで【知識・情報の共有】するための【意見交換の場】と捉え、【看護の知識・技術の向上のため】に必要であると看護研究を公表することの意義を見出していたものと考えられる。授業開始時に多かった【難しそう】、【大変そう】というものは減少し、【研究のテーマ・取り組み】にあるくそんなに難しいテーマじゃなくても良いと思ったから、身近な事象や自己の看護実践を看護研究に取り組みものであると感じ取ったものと考えられる。

中谷は「看護研究の方法」の学習活動を通して、授業の過程において研究成果を看護実践に活かすこと、研究にはその基盤が重要であり、研究動機・目的の明確化が重要であることを学習経験していたと報告している。(2)今回の結果と比較すると、学生は学会参加を通し【よりよい看護の実践のため】、【看護の知識・技術の向上のため】、【看護の質の向上のために行うもの】、【研究結果を看護に活かす】ということを感じ取ったものと考えられる。これは、臨床で活躍する看護師が患者への看護や日頃の看護実践での疑問を題材に看護研究に取り組んだ成果の発表の場である学会に参加したことから看護研究に取り組む公表する意義を見出したものと考えられる。そして、学会見学を通し、【看護研究への興味】を抱き【すごい】と、看護研究に興味関心を抱いていたことが明らかになった。

結 語

1. 「看護研究の基礎」の授業開始時は、看護研究に対する困難さ、学生自身が看護研究に取り組むイメージを持たず、【よくわからない】という漠然としたイメージを抱いていた。また、看護を追求しよりよい看護実践へつなげるものであるということや、研究過程を看護過程と結び付けたイメージを持っていた。
2. 「看護研究の基礎」の授業開始時は看護研究に対する困難感へのイメージが多かったが、学会見学後はよりよい看護の実践のために行うもののイメージが多くなり、さらに興味関心に関するイメージを新たに抱いていた。
3. 学会参加を通し看護研究を【よりよい看護の実践のため】と捉え、研究成果を発表する学会を【知識・情報の共有】するための【意見交換の場】と捉えていた。さらに、【看護の知識・技術の向上のため】に必要であり、【研究結果を看護に活かす】と看護研究を公表することの意義を見出していた。

謝辞

内容分析の際にご協力いただきました当校副学校長齋藤敬子先生に感謝申し上げます。

文 献

1. 日本看護協会. 看護師の倫理綱領. 東京:日本看護協会, 2003. 1頁. [引用アクセス 2014年8月1日]: [6画面]. 入手 URL : <http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/pdf/rinri.pdf>.
2. 中谷啓子. 「看護研究の方法」の授業における学生の学習成果の明確化—看護実践における研究成果活用を目指して—. 東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設年報 2001; 11: 1-11.
3. 西條剛央, 深井喜代子: 研究以前のモンダイ 無理と無駄のない看護研究. 看護学雑誌 2009; 73 (12): 4-22.

英 文 抄 録

Original article

Change in an impression on “the nursing research” among our nursing students before and after the participation in the association for the study of nursing —category analysis after the open ended question survey—

Central nursing school, educational department; teacher of nursing
Hiroko Kido

Objective: It is important for nursing students to understand the significance of nursing research, so the image formation for the nursing research is important. It is useful to determine how their images for the nursing research changes through the participation in the association for the study of nursing.

Study design: In 59 students of our 2nd-year undergraduate, we performed the open ended question survey about the imaging change of “the nursing research” before and after participation in the association for the study of nursing.
The analysis of description contents was categorized.

Results: The images for “the nursing research” before the participation in the association for the study of nursing were “looking difficult”, followed by “pursuing a nursing deeply” and “getting better nursing”.
The images of “the nursing research” after the participation were “getting better nursing practices”, followed by “improving the knowledge and techniques of the nursing” and “applying the results to daily nursing”.

Discussion: Nursing students could not naturally hold any images for the nursing research before learning experiences, which changed into the image to get better nursing through the nursing research fi-

nally. They regarded the association for the study of nursing as the exchange of opinions to get information sharing. Furthermore, the nursing research was important for an improvement of nursing techniques.

Key words : nursing student, image for the nursing research, participation in the association for the study of nursing, open ended question

表 1. 該当学生の授業計画

次	授業法	学習内容
1	講義法	看護における研究の意義、研究倫理
2	演習法	3年生のケース・スタディ発表会の聴講
3~6	学会見学	看護者の看護研究への取り組みの実際 研究成果の公表方法（口演・示説発表）の違い
7・8	講義 演習法	研究過程、文献活用の意義、文献クリティーク、 文献検索方法の演習 ケース・スタディ論文の作成
9~15	講義 演習法	・テーマの絞り込み ・ケース・スタディ計画書の作成 ・原著論文、抄録の作成

表 2. 授業開始時のカテゴリーとコード

カテゴリー(コード数)	コードの一部
難しそう(23)	難しく硬いイメージ
看護を深く追求するもの(20)	看護に対する考えを深める
よりよい看護をするための研究(15)	よりよい看護をするための材料
時間がかかりもの(9)	長い時間かかりそう
大変そう(9)	色々大変そう
看護の質の向上のために行うもの(5)	看護の質の向上
よくわからない(5)	何をするのか分からない
時代の積み重ね(4)	長年の歴史の積み重ね
論文を書く(3)	文字を沢山書く、論文を書く
エビデンスに基づき研究をする(3)	新しい看護の方法をするために 根拠などを研究する
発表すること(3)	まとめて発表すること
知識が必要(2)	知識がないと出来なさそう
面倒そう(2)	めんどくさそう
幅が広い(2)	幅広いイメージ
偉い人が取り組むもの(2)	偉い人たちが集まっている イメージ
研究プロセス(2)	看護過程と似たようなもの

表 3. 学会参加後のカテゴリーとコード

カテゴリー(コード数)	コードの一部
よりよい看護の実践のため(15)	今の看護をよりよくしていくもの
看護の知識・技術の向上のため(12)	看護の知識の向上
研究結果を看護に活かす(8)	研究をして終わりではなく看護援助 に取り入れていく
患者への援助を研究する(7)	患者に援助したことを研究する
研究結果を発表・公表するもの(6)	結果を発表する
看護上の疑問を解決するもの(6)	看護研究によって現場の疑問を解決 する
難しそう(6)	とても難しい
研究のテーマ・取り組み(5)	そんなに難しいテーマじゃなくても 良いと思った
大変そう(5)	協力依頼を患者にするのが大変そう
知識・情報の共有(5)	様々な看護研究を多くの人と共有
看護の質の向上のために行うもの(3)	互いに刺激し合って質を高めるもの
看護研究への興味(3)	楽しみ、おもしろい
すごい(2)	すごい、すごいなー
答えがないもの(2)	答えは一つではないイメージ
意見交換の場(2)	色々な人の意見や考えを交流させる場
看護の根拠の明確化(2)	看護の根拠を明確化できる

(2014/11/28受付)